

# みなとぴあボランティアレター 第51号

新潟市歴史博物館 みなとぴあ/2023.11

夏から秋にかけて充実した活動ができました！

## 8/11 たいけんのひろばなまつり

8月11日（金祝）に高校生ボランティアで「たいけんのひろばなまつり」を開催しました。今年度から高校生ボランティアを募集し、学校も学年も異なるボランティア20名で5月から準備に取り組んできました。当日は15名が参加し、トンボ玉とステンドグラス風飾りづくり、みなとぴあの釣り堀、むかしのあそび体験、葉っぱスタンプの本づくりの4つのたいけんプログラムを実施しました。

トンボ玉とステンドグラス風飾りづくりは当館で実施してきたプログラムですが、ステンドグラス風飾りづくりの下絵を笹団子といった新潟にまつわるものにするなど、高校生ならではの工夫をしていました。また、トンボ玉づくりは新潟工業高校の学生たちが学校で培った技術を用いて器用につくり、わかりやすく参加者に教えていました。

みなとぴあの釣り堀は、牛乳パックに新潟で釣れる魚の絵を描いて、それを釣り具で釣ってみるといった高校生が考えたオリジナルプログラムです。釣り具は竿と網の2種類用意して、参加者に合わせて難易度を調整できるように工夫していました。また、班のメンバー全員が女性ということもあり、積極的にコミュニケーションを取りながら準備を行い、当日も参加者との交流を楽しんでいました。

葉っぱのスタンプ本づくりは、当館の敷地で採取した植物の葉に絵具を塗り、スタンプのように押して色とりどりの本をつくる高校生が考えたオリジナルプログラムです。事前に敷地にある植物の葉を採取し、植物の名前を調べるなど、当日スムーズに実施できるように準備をしていました。当日は特に小さいお子さんに人気のプログラムとなりました。

むかしのあそび体験は、当館でも定期的に行っていますが、今回はけん玉や輪投げといった遊び体験に加え、お手玉と竹とんぼをつくることにも挑戦しました。竹とんぼづくりは、子どもたちがつくることを考慮し、牛乳パックとストローでつくれる簡易的なものにし、お手玉づくりは縫う場所を少なくするなど、子どもが簡単に制作できるように工夫していました。制作後は、つくった遊び道具で高校生と一緒に楽しそうに遊ぶお子さんの姿が印象的でした。

当日は120名という多くの方にご参加いただきましたが、高校生それぞれが様々な場面を想定して準備していたこともあり、怪我無く無事終了することができました。最初は初対面の学生同士ということもあり緊張している場面もみられましたが、準備が進むにつれ高校生同士の仲も深まり、仲良く楽しくイベントができたと思います。来年も是非開催したいと思います。



## 10/8 歴史探訪 in 白根

10月8日（日）に歴史探訪を行いました。今回の行き先は、アンケートで最も希望が多かった白根町。中ノ口川沿いに成立した在郷町であり、果樹や仏壇、白根絞りといった魅力的な特産品があります。8月のステップアップ研修で白根町の歴史的概要について勉強し、この内容を踏まえた上で町歩きをしました。

最初に訪れたのは、しろね大凧と歴史の館です。ここは白根地区の歴史民俗資料をはじめ、日本及び世界から集められた数多くの凧が展示してあります。最初に、館長の笠井さんから白根大凧合戦のことについて説明していただきました。大凧の絵柄が町内によって決まっていることや晴天でも風向きによって合戦ができないことがあるなど、ユーモアあふれる解説で楽しく凧合戦の魅力について紹介していただきました。白根地区の歴史を紹介している展示室では、町歩きの事前学習として、白根タウンガイドの方々の説明で江戸時代の町割りについて解説していただきました。



その後、白根タウンガイドの方々に解説していただきながら、2グループに分かれて白根町を歩きました。家と家の隙間を互いに床の間や押し入れに活用する「ダシアイ」といった建築構造や「ダンジロウ小路」という黒壁の小路など、歴史を感じることでできる場所をたくさんご案内いただきました。また、野沢吉太郎さんの蔵といった普段見学できない場所もご案内いただき、充実した時間を過ごすことができました。

## 11/18 ボランティアフェスティバル 2023

11月18日（土）にボランティアフェスティバルを開催しました。今年は感染症予防対策の制限がなく実施できることもあり、張り切って準備をしてきましたが、当日はあいにくの荒天…。参加して下さる方やボランティアスタッフの安全面も考慮し、予定していた内容を一部変更して実施しました。

ボランティアフェスティバルの定番イベントである塔屋見学会は中止し、その代わりに常設展示室のガイドを実施しました。県外から来館された方が多く、中には韓国からいらっしゃったという方も。ボランティアたちは、参加者ひとりひとりに丁寧にガイドしていました。また、参加者から「ガイドを延長してほしい」とのリクエストも多かったようで、1時間以上ガイドをしていた方もいました。「ガイドすることに自信がついた」とおっしゃっていた方もおり、参加者及びボランティアともに充実した時間を過ごすことができました。



敷地で開催予定だったスタンプラリーは本館内で実施し、窓から敷地の建物をみてガイドしました。旧新潟税関庁舎、旧第四銀行住吉町支店、本館の概要をはじめ、建物内は写真を用いてガイドするなど、それぞれが工夫をしてガイドしていました。また、小さいお子さんにもたくさん参加していただき、スタンプを楽しそうに押していました。幅広い年代の方々に敷地の建物の魅力やその重要性について、理解していただくことができました。



体験プログラムでは、まが玉づくり、紙けん玉づくり、ぶんぶんゴマづくり、紋切あそび、紙飛行機づくりを実施しました。まが玉づくりといった久しぶりに実施するプログラムもありましたが、事前にボランティアでやり方などを確認、共有したこともあり、スムーズに実施することができました。参加してくれたお子さんも一生懸命に、また楽しみながら制作していました。プログラムの内、紙飛行機づくりは高校生ボランティアに運営してもらいました。どのつくり方が簡単か、よく飛ぶかなどを事前に調べて、当日は参加者にわかりやすくつくり方を指導していました。高校生と一般ボランティアとの交流も盛んに行われ、いつもより場が明るくなった気がします。

荒天ではありましたが、全体で141人の方にご参加いただくことができました。例年より参加者は少なかったものの、その分参加者ひとりひとりとじっくり交流することができ、充実した1日だったのではないのでしょうか。

来年は開館20周年！今回の経験を踏まえつつ、より良いボランティアフェスティバルをつくりあげていきましょう！

#### 【岩間正吉さんからの一句】

- ・秋フェスタ 老いも若きも 楽し一日
- ・秋フェスタ 終えていい顔 ボランティア
- ・秋フェスタ みなとぴあ楽し いい笑顔



## 11/20 葛塚町歩き



11月20日(月)にボランティアの鎌田さん主催で葛塚町歩きを実施しました。当日は、ボランティアフェスティバルに続きあいにくの荒天(ボランティア担当が雨女の可能性あり…)。途中雨が降ったり、晴れたり不安定な天気でしたが、2時間かけて葛塚を歩きました。

豊栄駅を出発し、最初は石動神社へと向かいました。江戸時代、このあたりには葛に覆われた周囲180メートルの塚があったといわれており、これが「葛塚」という地名の由来になったといわれています。ここには、石動神社のほか、かつて用水があった場所に架かっていた石橋や阿賀野市の大工が彫った立派な彫刻の社殿がある葛塚古峰神社があります。参加者は、鎌田さんや田嶋学芸員の解説を聞きながら、様々な歴史を感じていました。

次に中大口匠通りを進み、庄屋敷跡へ行きました。葛塚の庄屋は遠藤家が勤めており、その屋敷があった場所は現在空地になっています。ここでは遠藤家についての解説を聞き、特に4代目の庄屋である遠藤七郎左衛門宗寿は、葛塚を水害から守るために堤防を築いたり、用水をつくったりして葛塚の礎を築いたことを知ることができました。

続いて、当日は市日ということもあり、葛塚市場通り(常盤町)に行きました。果物屋さんや魚屋さんなど現在でも様々なお店が出店しており、天気の良い中でも元気のいい声が飛び交っていました。葛塚市場通りを抜けると、かつての川蒸気船発着場があります。明治8年に就航し、「葛塚丸」といった川蒸気船が新井郷川を下って阿賀野川、通船川を経て新潟に向かっていました。かつての新井郷川の河道は、現在では埋め立てられてしまいましたが、その頃を想像するとまた違った葛塚の姿がみえてきます。

その後、豪商三条屋の屋敷跡を見学し、開市神社へ。ここは、遠藤家の庄屋3代（宗寿、国忠、昭忠）が祀られている神社です。国忠は葛塚の農民と町民の対立の仲裁に尽力し、昭忠は幕末に勤王を掲げ、農民たちを集め「北辰隊」を結成し活躍しました。庄屋遠藤家が、葛塚の歴史を語るのには欠かせないことを実感しました。



最後は、市島家が仮住まいをしていた昭善寺へと向かいました。ここでは、実際に市島家と昭善寺の家紋のはいった袷裯を見せていただき、双方の関係性を実感することができました。葛塚は三条屋や市島家、また斎藤家といった豪商農が多く住んでおり、発展が見込まれていた場所であったことが想像できます。

町歩きが終わるといよいよ楽しいお昼ご飯！DHC酒造さんでお弁当とおいしい日本酒を飲みました。様々な種類の日本酒をご提供いただき、飲み比べも楽しみました。歴史も学べ、おいしい食も堪能した充実した1日でした。

## 10～12月 暮らし展解説会

10月から12月にかけて、むかしの暮らし展「どうぐのどうぶつえん！」のボランティアによる展示解説会を実施しました。ボランティアによる企画展解説は今回で2回目。民俗分野での解説は初めてです。今回は5名のボランティアスタッフにご協力いただき、土日祝日に解説を行いました。

解説担当日前には、各自企画展示室で勉強する姿がみられました。当日は民具の使い方やその背景など、丁寧に解説しており、参加した方々は熱心に解説を聞いていました。中には、子ども向けと大人向けの解説どちらも準備してきた方もおり、当日は柔軟に解説していただきました。



今後もこのような機会を積極的につくっていきたいと思っています。

### 【編集後記】

今回は夏から秋にかけての活動を紹介しました。それぞれの活動の準備メンバーのみなさま、本当におつかれさまでした！今年度から高校生ボランティアの活動がはじまり、11月のボランティアフェスティバルでは、一般のボランティアと高校生ボランティアと一緒に活動しました。当日は楽しく話をしている場面もみることができ、ボランティア同士の交流によりさらに活動が盛り上がるのではと期待しています。これからも、幅広い世代で仲良く、協力して様々なイベントを実施していきたいですね♪（鈴木）

2023.6月現在

みなとびあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、新潟の街をみんなで盛り上げていこう！という事業です。

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。



(順不同)